

フレッシュマン・オカザキのインド通信

## クンナム最新情報！！

当社のインド協力工場よりクンナムに関する最新ニュースです！

この情報から今月のメルマガ、スタートです！！

**当社協力工場の自社クンナム丁場を現在開発中です！**

**その名も、KNM-1 (クンナム・アイ)**

もちろんクンナム丁場群の中にある本物です。色は今まで見たクンナムの中で1番濃いと言っても過言ではありません！



↑岩盤の一部を取った欠片。



↑左がクンナム-1、右がメジャーなクンナム-Eの濃い手です。より濃く、クンナム独自の目合いをしっかりと持ち合わせています。

2年ほど前にオーナーから話を聞いた当初は、我々は本当に実現できるのか疑問に思っていました。一般的に丁場の開発には環境保護法などの縛りもあれば政府の強い圧力もあったりと、そう簡単に採掘開始をできるものではありません。しかし、丁場群のあるタミルナドゥ州政府と強いコネクションを持つ工場オーナーのおかげで、あと一步というところまでやってきました！そして、こちらの工場は弊社以外の他社様との取引は行っておりませんので、**弊社独占のKNMという事になります。**実際に採掘が開始され、少し様子をうかがう必要がありますので、皆様にご提供できるまではもう少々かかってしまいますが、また情報入り次第皆様にご報告させていただきます！是非ご期待ください！

# ヒングリッシュとは…

インドの公用語が何語か、皆さんはご存知でしょうか。

インドは連邦制をとっており、公用語を指す時には連邦レベルでの公用語と州レベルの公用語の二つに分けられています。インドの連邦レベルでの公用語は**ヒンディー語と英語の二つ**。州レベルではなんと22の指定言語があります。私が出張でよく訪れる南インド・タミルナドゥ州で話されている言葉はタミル語と呼ばれており、ヒンディー語とは大きく違います。(私にはあまり違うように聞こえませんが…)

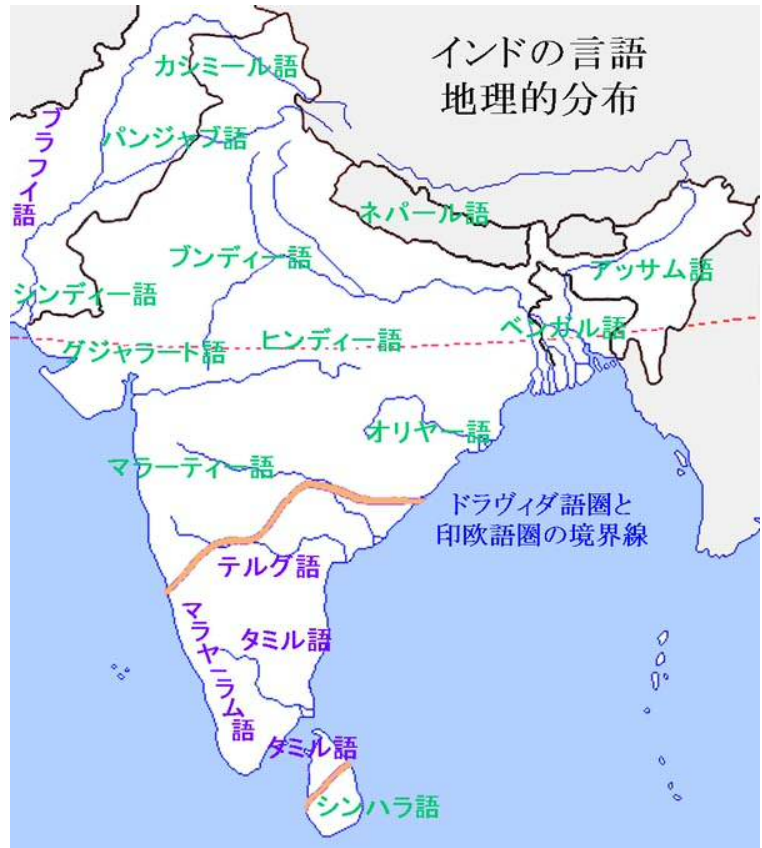
このように、インドではそれぞれの州や地域がそれぞれの公用語を採用しているのです。公用語以外の方言も含めるとインドには**2000もの方言**があるとされています。こうした状況で地域の異なる人々とコミュニケーションをとるのは非常に難しいのです。

インドは元々イギリスの植民地で、18世紀初頭になって英語が徐々に使用されるようになり、公の場で話されるようになりました。そして独立後、言語の統一の問題が挙がりました。もともと英語ではなくヒンドゥー語を国語として定めるはずでしたが、タミルナドゥ州でヒンディー語の公用語化に対する抗議運動が1963年に起きたことによって、国論は二分されることになりました。多様な言語が存在するインドの言葉を統一することは簡単なことではなかったのです。

そこで息を吹き返したのが、英語でした。当時のインドの人口は約3億人、このうち英語をしゃべれる人口は3%に過ぎませんでした。もともと北インド、南インドの両方にとって敵国語でしたが、**対立する南北インドの「接着剤」として公用語になりました**。英語教育は識字率を向上させるとして、貧困層からの支持も得る事が出来たのです。

この様にして広まったインド英語ですが、ヒンディーとイングリッシュを掛けて、**ヒングリッシュ**と呼ばれています。しばしばインド英語の独特な訛りや言い回しを揶揄して言われる事が多いのです。ヒンディー語等の母語の発音のくせが強く残っていることに加えて、インド人はとても早口で、英語を話せるインド人と会話をしている、聞き取りにくいと感じることも度々あります。

個人的に印象に残っているヒングリッシュの言い回しを 为您介绍します！



## 【I have a doubt.】

普通に訳すと、「私は疑いがある」となり、何を疑っているの?!と思わず聞きたくなってしまいうまい回しですね。これは単に、I have a question(私は質問がある)の意味で、何か質問があるときに普通に使われます。確かに意味としてはわかるような気がしますね。

## 【prepone】

Postpone は「延期する」という意味で、「出荷が延期になりました」と言う時等に使います。(なるべく聞きたくありませんが…笑)

それに対して、prepone の意味は「予定を前倒しする」。「後の」の意味を持つ post- を、「前の」の意味を持つ pre- に替え、勝手に英単語まで作ってしまったようです。

**そしてなんと、ヒングリッシュから英語へ逆輸入され、日本語にもなっている単語も存在します！**

## 【シャンプー】 語源：Champoo

シャンプーは実はヒンドゥー語なのです。もともとの意味は「頭部のマッサージ」 現在では頭髪を洗う液体を頭髪を洗うことを指していますが、もともとの意味とは異なります。18世紀に英領インドからイギリスにシャンプーが伝わって洗髪という意味に変わっていったのです。当時はイギリス人が頭を洗う際にインド人である召使に対して「頭をこすってくれ」と言っていたことが洗髪という意味に変わった一つの理由のようです。

## 【ジャングル】 語源：<jangal>

ジャングルと聞くと熱帯地域に鬱蒼と茂った密林を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。英語の辞書的な意味ではその通りで、熱帯の高温多雨地にある密林を指します。ヒンディー語である jangal の語源はサンスクリット語である jangra で、意味は「乾燥」「砂漠」という意味でした。密林と砂漠。現代の意味するジャングルと昔のジャングルでは完全に意味が正反対なのです。

**日本語にもある意外なヒンディー語。少しでもインドを身近に感じていただけたのではないのでしょうか。最後まで読んで頂き有難う御座いました。また来月まで！**